

行書の指導について

横西 清

一 はじめに

中学生ともなると、ノートやメモなどの日常の書写活動の場で、かなり行書的な文字が見つけられる。このことは、文字を速く書く必要性と発達段階から考えて当然のことであろう。このような機会をとらえて、行書の正しい書き方を理解させ、基礎的な技能を身につけさせることの意義は大きいと考えられる。ところが、学習指導要領では、「やさしい行書の基礎的な書き方を理解して書く」とあるだけで、何をいつどのように指導するかという具体的な内容についてはいつこうに示されていないため、や、もすると、楷行草をミックスしたような書きぶり、絵画的なひとりよがりの速書きが横行して、書写生活を混乱におとし入れる結果ともなりかねない。行書は楷書よりも速く書ける書体であることは明確なのだから、速く書けるためにはどう書いたらよいのかを正しく理解させる行書の指導の必要が生じてくるわけである。

二 行書の指導の基本的要素

効果的な行書の指導を行うために、その内容を精選するとつぎのような要素が考えられる。

①点画の連続——曲線(点画の丸味)

行書は流動的な続け方をするとところに特徴があり、若干の緩急を伴いながら運ばれるなめらかなのために、点画は自然に丸味を帯びてくる。

②左右の払いの変化

「払い」が「とめ」に変わり、そのかわり方も多様である。

③点画の省略

楷書の運筆とことなり、一画の終筆が直ちに次の画へ結びつく状態で筆が運ばれるために点画が省略されることが多い。

④筆順の変化

行書は、文字によっては運筆の合理性と慣習から、その筆順が楷書とことなることがある。

これらの要素を確実に学ばせるためには、教材として選ぶ文字は画数の少ないものから、系統的・段階的に選んでいくことが肝要と考える。

三 漢字表(楷行)による学習

毛筆で学習した行書の書き方を硬筆に応用しようと、教育漢字(八八一字)についてその楷行書の標準書体を示して、練習のつみかさねを図ったものである。

四 古典の鑑賞と書風

行書の代表的古典(空海—風信帖・灌頂記・嵯峨天皇—李嶠詩・橘逸勢—伊都内親王願文・藤原行成—白氏詩巻・王羲之—奉橘帖)を鑑賞して、その印象を語り、その印象の根拠をさぐりながら、書は書いた人によってそれぞれ違った趣があり、同じ人でも文字の大きさ、用具用材によってまた違った情趣をかもしだすものであることに言及したい。

(例) 風信帖||軽薄なところがなく落着いている(印象)——「はねた」「はらった」というよりは「はねや払いの末端まで筆をもっていった」といったように、太さもあまり変らずゆったりしているから(印象の根拠)……………鑑賞↑↓製作

五 学書の楷梯は行草から

書の学習は筆の働き(物理的性能)が十分に生かされる行草からはじめるのが至当ではないか。

六 むすび

一	一			
一丁	丁			
一七	七			
一三	三			
一上	上			
一下	下			
一不	不			
世	世			
口中	中			
主	主			
久	久			
三乘	乘			
九	九			
事	事			
二	二			

五	五			
交	交			
京	京			
人	人			
仁	仁			
今	今			
仕	仕			
他	他			
付	付			
代	代			
令	令			
以	以			
件	件			
任	任			
休	休			

一				
丁				
七				
三				
上				
下				
不				
世				
中				
主				
久				
乘				
九				
事				
二				

五				
交				
京				
人				
仁				
今				
仕				
他				
付				
代				
令				
以				
件				
任				
休				

①一丁七三上下不世①中①主①久乘②九①
事②二五①交京④人仁今仕他付代令以伴任
体似位低住何仙作使乘例供便係俗保信修儀
倉個倍候借飯俸健側備佗傷像佻億④元兄先
光兒②入內金兩①八公六共兵具典兼①再②
冬冷①出⑦刀分切刊列初判別利制刷券則前
副創⑦力功加助努効勇勳動務勝勞勢勤勸⑦
包②化北②区①十千午半卒協南博①印⑦厚
原④去叁②友及取受②口古句可史右司各合
同名后向君否告周味命和品貧唱商問善喜單
器嚴②四回因困囹圄囹圄④土在地坂均
型基堂報場境墓增互⑤士壹②夏②夕外多夜
④大天大夫央失奮⑤女妹妻姊始妾婦⑤子字
存孝季孫字①守安完宗官定器室室宮室宮室容

宿寄富寒察察實寫⑤寺尊尊對導①小少④就⑦
局居屆屋展屬④山岩岸島④川州②工左差②
己④市布希師席帳帶常④平年幸幹⑦序底店
府度庫庭廉宏④延建①式③引弟弱張強③形
①役往待律後徒得從復德④心必志忠仗念思
急性恩息悲情惡想意愛感態慣憲忘④成我戰
④戶所④手才打承技投折招拜拾持指授採接
推提損荐拈④支④收改放政故教赦敗散敬敵
數整②文④料④新斷④方旅族旗④日早明易
星春昨昭是時昼景晴暑暗暴曜④曲書最會④
月有服望朝期④木未末本材材東板林果查柱
校株根格案案桷森植業極榮構梁標樣橋樞橫
換權④次欲歌歎④止正步武歷歸⑦死殘②殺
④毋每毒②比④毛④氏民④氣④水冰永求池

李嶠詩（嵯峨天皇御書。平安時代。）

何出崑崙中長波樓後空
桃花生了賴以箭入龍宮
憶此千羊覆紫光五色通
羨披蘭葉拾還休上皇風

伊都内親王願文（橘逸勢書。平安時代。）

庶幾人至之雷聲一

風信帖（空海書。平安時代。）

風信雲書自天前以
披之閱之如揭雲霧蓋
惠止觀妙門頂戴供養
少古仙居已冷似僧

灌頂記（空海書。平安時代。）

圓信

大り

志圓

大り

真指

又碑

教架

宮藏

義輝

紀高

白氏詩卷（藤原行成書。平安時代。）

集賢池蒼竹中密阿

主人晚入皇城宿四夜

奉嶠帖（王羲之書。東晉の人。）

此平安脩載東十餘

人少入近集存想明

當心志中一三田同